

学校名	佐賀市立思斉中学校	達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
-----	-----------	---

1 前年度 評価結果の概要	○小中一貫校として、合同の職員会議や研修会等を行い、生徒理解や授業改善を図っている。その成果は、少しずつだが県調査、学校評価アンケート等に表れてきている。次年度は、授業改善はもとより、小中とも課題となっている家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導を継続していきたい。 ○生活面では、全体的に落ち着いた学校生活を送れており、「立ち止まって挨拶」ができる生徒が増えてきている。次年度もコロナ禍の状況は続くと考えられるが、やり方を工夫しながら家庭・地域との連携を継続して図っていきたい。 ○生徒が主体的に活動する場として、縦割り班によるボランティア活動や授業等におけるグループ活動を意図的に設定し、協働的な指導・支援を行う中で、生徒一人一人の自己肯定感を育んでいく。 ○教職員の不祥事防止はもとより、授業力向上やいじめ防止、個別の支援等に係る教職員の資質向上のために、校内研修の充実に努めていく。 ○次年度は小中一貫校思斉館開校から12年目を迎え、第2ステージの3年目に入る。第2ステージを見通す学校経営のビジョンを職員・保護者・地域と共有し、実践を進めて行く。
------------------	--

2 学校教育目標	「見賢思斉」の精神で、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成 ～小中一貫教育の推進を通して～
----------	--

3 本年度の重点目標	① 学力の向上（校内研究の充実と授業改善）	② 生徒指導の充実（生徒理解と開発的生徒指導）
------------	-----------------------	-------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・「学力向上対策評価シート」の共通実践をもとに全職員がマイプランを実施することができた。県の学習状況調査の結果によると、1年生は国語・社会・理科・英語の正答率が県より下回っており、特に、理科は6ポイント、英語は9ポイントと大きく下回っているため、小テストや補習などの手立てを取り、改善を図った。
	○「自ら学び、確かな学力を身に付けた生徒」を育成する授業実践	○「授業が楽しい」と思える生徒が80%以上、課題に進んで取り組む生徒80%以上 ○家庭学習や課題の提出率が90%以上	・小中合同校内研修会で、授業改善における共通理解を図り、全職員で実行する。 ・授業研究会を通して、主体的に楽しく学べる授業づくりや課題(宿題)の工夫を研究する。	A	・12月のアンケートにおいて、「授業が楽しい」に肯定的な回答をした生徒は88%で、「学校から出された宿題に取り組んでいる」については、95%、「家で進んで自主学習に取り組んでいますか」の質問に対しては、83%の生徒が肯定的な回答であった。各教科で、「学ぶ楽しさを実感できる授業」を目指して授業改善に取り組んだ結果、一定の成果が得られたものと思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○QU調査[学級満足群]の増加、[要支援群]の減少 ○行事の感想で、自分を大切にし他者を思いやる心を表現できる生徒の増加 ○ネットリテラシーの向上を図り、ネットいじめゼロとネットトラブルゼロ	・道徳・学活の計画的な実施と充実(行事等で生徒に出番・役割を与え、承認場面を設定する。) ・人権集会やいじめ・いのちを考える日、命の講演など開催する。 ・ひまわり講座の実施	A	・学年スタッフ全員で道徳の授業を行った。担任だけでなく当番制で授業を行うことで、職員も生徒も新鮮で、深い学びができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○各学年いじめ発生の未然防止と継続指導により未解消ゼロに	・いじめ・いのちの日の取組 ・毎月の「心のアンケート」の実施 ・定期教育相談の計画的な実施、随時相談の実施	A	・毎月の「心のアンケート」により、生徒の状態が把握でき、組織的対応がよりスムーズに的確にできた。 ・いじめ・いのちの日の取り組みで、生徒・職員ともにいじめ・いのちに対する意識が高まり、いじめが確実に減った。 ・定期教育相談で生徒・保護者・教員との強い信頼関係が構築できた。
	◎小中一貫教育の推進、地域連携の推進	◎生徒指導の4項目の共通実践およびQU/NRT調査結果を小中で共有する。 ○職員の共通理解を図り、地域行事への参加率を向上させる。	・小中合同の会議を行い、共通理解を図り共通実践する。 ・地域行事については、行事予定に明記し協力体制が取れるようにする。	B	・部活動体験を中止とし、代わりに7年生の実行委員による「ようこそ先輩」をオンラインで行った。子供目線の説明や、質疑応答が非常に好評だった。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上 ●交通安全教室や防犯教室での講話を自分事として捉え、避難訓練を通して命を守る行動について理解できた生徒が80%以上	・規則正しい生活(食事)、適度な運動習慣をが身につくように、保健体育の授業を中心に学活や道徳、家庭科等複数の教科で指導する。 ・交通安全教室等を実施し、安全意識の向上を図る。	A	・昼休みのボールの貸し出しやクラスマッチなど、主体的に運動にとりくむきっかけを与えることができた。運動部活動に所属していない生徒の運動時間を増やすことが今後の課題として残る。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○コンプライアンスの意識の向上	・出勤退勤端末の入力の徹底し、各自が自分自身の時間外勤務の実態を把握し、働き方の改善を意識する。 ・職員会議毎に「ゼロの日」の実践を継続する。講師を招き、服務に関する研修会を開催する。	B A	・出勤退勤時に記録する職員が増えてきた。記録することを通して「自分自身の働き方を見直す」ことに繋がってきている。しかし、時間外の大きな縮減には至っていない。 ・ゼロの日を活用し、県や市からの通知やプレスリリース等を全職員に配布し、コンプライアンスの意識付けを行った。多くの職員が自らの職責の重さを自覚した行動ができている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○特別支援教育体制の充実	○一人一人の能力や目標に応じた進路保障を念頭に置き、支援計画の作成をする。(職員の共通理解・共通実践と保護者との連携)	○生徒の自立を見据え、保護者と日頃の学校生活や家庭での生活等について、進路や目標に対しての積極的な意見交換を行う。	・全職員の共通理解のもと、校内体制づくりを行う。そのため、特別支援教育に関する職員研修会等を開催する。 ・保護者と定期的な連絡を取り合う。	A	・保護者と密に連絡を取り、家庭と協力しながら支援を行うことができた。 ・支援計画をもとに一人ひとりに必要な支援や、学習内容を組み立て、実行することができた。 ・不登校傾向の生徒に関して、外部機関につなぐことができた。(できていない生徒もいる。)

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育					
5 総合評価・ 次年度への展望	○小中一貫校として、合同の職員会議や研修会等を行い、生徒理解や授業改善を図っている。それが、県調査や学校評価アンケート等に良好な結果として表れている。次年度も本年同様、授業改善はもとより、小中とも課題となっている家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導を継続していきたい。 ○生活面では、全体的に落ち着いた学校生活を送れており、「立ち止まって挨拶」ができる生徒が増えている。次年度もコロナ禍の状況は続くと考えられるが、やり方を工夫しながら家庭・地域との連携を継続して図っていきたい。 ○生徒が主体的に活動する場として、縦割り班によるボランティア活動や授業等におけるグループ活動を意図的に設定し、協働的な指導・支援を行う中で、生徒一人一人の自己肯定感を育んでいく。 ○教職員の不祥事防止はもとより、授業力向上やいじめ防止、個別の支援等に係る教職員の資質向上のために、校内研修の充実に努めていく。 ○次年度は小中一貫校思斉館開校から13年目を迎え、第2ステージの4年目に入る。第2ステージを見通す学校経営のビジョンを職員・保護者・地域と共有し、実践を進めて行く。				